



2021年5月18日

創業者の経営思想とスポーツ文化の象徴 「ミズノ淀屋橋店」94年の歴史に幕

ミズノは淀屋橋駅西地区第一種市街地再開発事業に伴い、1927年に本社屋として完成したミズノ淀屋橋店（大阪市中央区）を、2021年6月30日に閉店します。2025年秋以降に完成予定の再開発ビル内に、出店予定です。

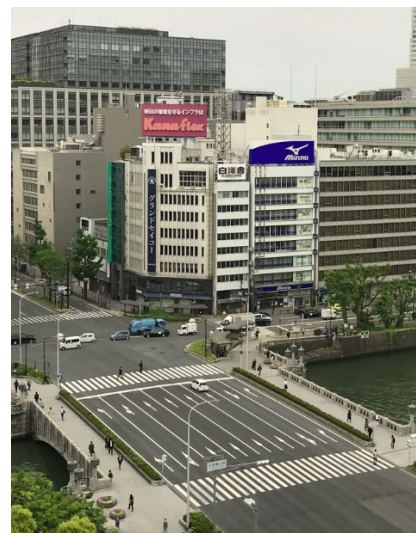
ミズノ淀屋橋店は、後に商業の中心地となる大阪・淀屋橋に、大阪で7番目^{※1}の高層ビルとして1927年に完成しました。創業者 水野利八（1884年～1970年）は、濃尾地震（1891年）で被災した水野家の復興の証として100尺のビルを建てるという目標を立て、1906年に水野兄弟商会を創業しました。しかしながら、「個人的な責務を果たして安心してはいけない。はるかに大きい社会的な責任（スポーツ産業の発展）が残っている」と自戒の意味を込め、敢えて98尺8寸のビルとしました。

※1 スポーツは陸から海から大空へ～水野利八物語～（1973年、ベースボール・マガジン社刊）より

ミズノ淀屋橋店は、水野利八の経営思想の象徴として、100年近くにわたりスポーツ文化の発展とともに歩んできました。



1927年頃の淀屋橋店



2021年の淀屋橋店

■創業者 水野利八とスポーツ文化

水野利八は19歳の時、奉公先の京都で野球の試合を観戦し野球の虜となり、1906年に弟利三と「水野兄弟商会」を創業しました。スポーツウエアの販売からスタートし、スポーツ用品の製造や野球大会を主催するなど、スポーツの振興を通じて事業を拡大してきました。さらに、「カッターシャツ」「オーバーセーター」「ポストンバッグ」「オランダマフラー」などのネーミングを考案し、スポーツウエアを日常着として提案するなど、スポーツ文化を普及、発展させてきました。1938年には品質向上を目的に本社屋内にセレクト科学研究所（現 グローバル研究開発部）を設立しています。

■ミズノ本社屋の変遷

ミズノ淀屋橋店は、1927年から1992年3月31日まで本社屋として機能しました。1992年4月以降は、直営店として運営しています。

- ・1906年 大阪市北区芝田町 「水野兄弟商会」を創業
- ・1910年 大阪梅田新道に移転 「美津濃商店」に社名変更
- ・1913年 大阪市北区蛸橋に移転
- ・1921年 大阪市中央区北浜に移転
- ・1927年 大阪淀屋橋に移転（本社屋完成）
- ・1938年 本社屋内にセレクト科学研究所を設立
- ・1956年 本社屋南館増床
- ・1960年 本社屋中央・南館増床
- ・1962年 本社屋北館増床
- ・1979年 東京・大阪両本社制スタート
- ・1992年 大阪本社移設（大阪市住之江区）に伴い、ミズノ大阪本店（直営店）として運営
- ・2018年 ミズノオオサカ茶屋町完成に伴い、ミズノ淀屋橋店に改称

■ミズノ淀屋橋店に関わるエピソード

水野利八のアイデアにより、数多くのトレンドをミズノ淀屋橋店から発信してきました。

- ・フンドシ広告（懸垂幕）を掲示
- ・荷車で配送する時代に、オートバイにリヤカーを取り付けて街を走り配送することで評判を呼ぶ（1919年）
- ・大阪で一番速いと言われたエレベーターを取り付け、初めてエレベーターガールが可愛い衣装を着用（1927年）
- ・7階、8階に大食堂をオープン「ライスカレー」「ホームランジョッキ」が人気を博す（1933年）



フンドシ広告



リヤカーを取り付けたオートバイでの配送



7階、8階の大食堂

出典：スポーツは陸から海から大空へ～水野利八物語～（1973年、ベースボール・マガジン社刊）より

■ミズノ 淀屋橋店 歴史的価値について

ミズノ 淀屋橋店の設計者は岡部顕則氏で、1927年当時の最先端の技術とデザインが採用されています。

関東大震災（1923年）後に建築されたため、建物の強度を高めることを目的に現代の基準よりも短い間隔で梁が入っており、梁が柱と接合する箇所下部に斜めの補強材「ハンチ」が入れられ、より強度を高める工夫がみられます。

屋上エレベーター室はロマネスクデザイン様式^{※2}、軒や階段手摺はドイツ表現主義デザイン^{※3}が採用されています。2階の踊り場には、更紗柄の入った1枚物の黒大理石（厚さ4.5センチ）が使用されています。さらに、1階の階段裾は、下段の幅を広げることで、高揚感を高めるデザインとなっています。

※2 古代ローマ風でアーチを多用した優美なデザインが特徴の造形手法

※3 1920年代にドイツで流行した造形手法



ロマnescクデザイン様式の屋上エレベーター室
(右：ドイツ表現主義デザインの軒（キュビズム柄）)

※大きなブラインドアーチとアーチの連窓小窓が特徴



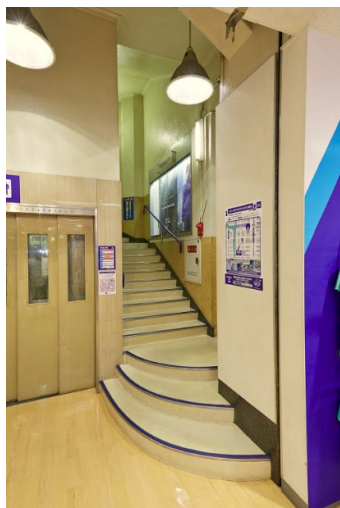
地下1Fの階段手摺

※階段形状と手摺表面の野趣のあるはつり仕上げが特徴

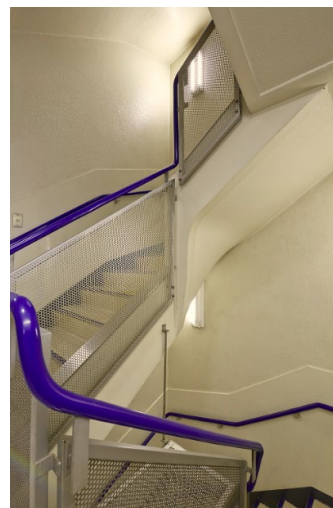


各フロアの天井

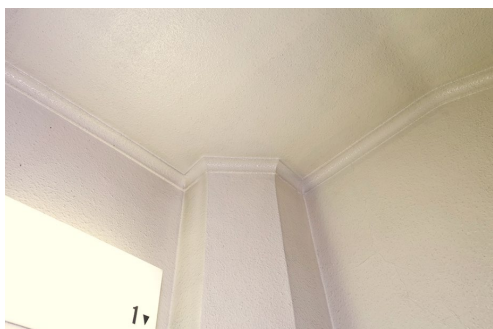
※短い間隔で入っている梁と「ハンチ」構造



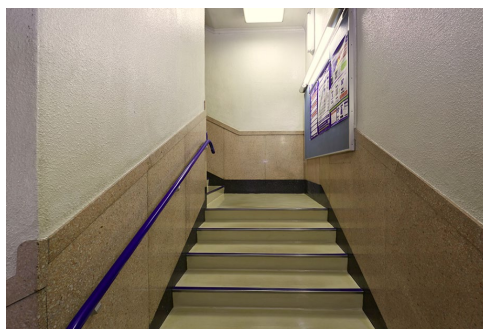
1階南側と北側の扇状の階段



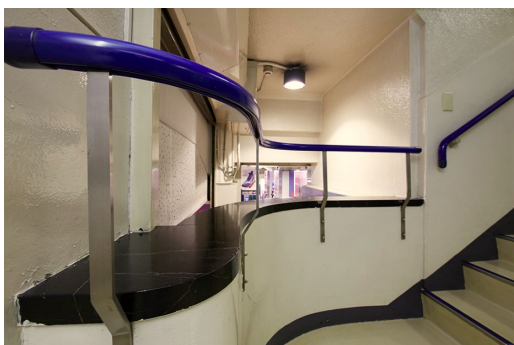
階段裏の曲線構造



面取りをされた柱や細かな左官仕事

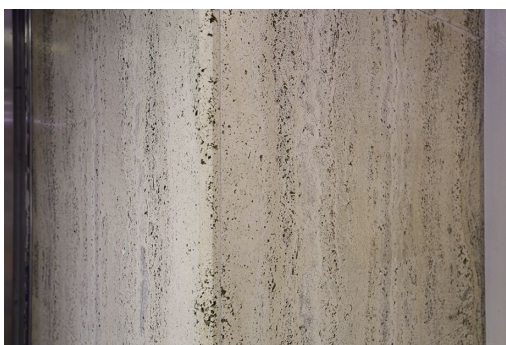


階によって色を変えている腰板



2階階段手摺の黒大理石（厚さ4.5センチ）

※1階を見渡せる吹き抜け構造



1階北側の柱

※珊瑚礁が固まってできた国産トラバーチン（大理石）

調査協力：京都華頂大学 川島智生教授

（お客様のお問合せ先）ミズノお客様相談センター

TEL：0120-320-799